

母篇 第3話

妊娠中のお口トラブル①

「さて歯医者に行こう!」と思って、「ん!?!」妊娠中って歯の治療できるのかしら? 「お腹の赤ちゃんに影響はない?」と思われる方は多いのではないのでしょうか。スマホで検索すると、「治療できる」というサイトもあれば「できない」というサイトも。せっかくなにかをあげて歯科を受診しても、悲しいことに治療を断られるケースもあると伺ったこともあります。「それなら行かないわ」と、歯の問題は解決されず放置される傾向にあるようです。

妊娠中はホルモンバランスの変化だけでなく、お腹の中に赤ちゃんがいることで体の重心バランスも変化しやすいもの。これらが原因で歯ぐきが腫れたり、強い噛みしめを受けて歯の詰め物が歪んで外れたり、歯がかけてしまったりすることは珍しいことではありません。

妊娠中に歯科治療を受けてもいいの?

ホントのところ、妊娠中に歯科治療を受けることはできるのでしようか? 安定期(16週)から行えば問題はありませんが(母体と胎児への影響を考慮して)。詳しく知れば不安も払拭されますね!

妊娠時期と治療について

時期	週数	詳細説明
妊娠初期	0~15週	応急処置のみにとどめてもらいましょう
妊娠中期(安定期)	16~27週	外科処置を含む一般的な歯科治療を受けられます。薬の服用も可能です。歯科で処方される薬で気をつけるものはロキソニンなど(NSAIDs)と呼ばれるお薬です。きちんと妊娠中であることを伝えて服用可能か医師に相談しましょう。
妊娠後期	28~39週	仰臥位(ぎょうがい)低血圧に気をつけ、長時間の処置はさけてもらいましょう。

(次のページへ続く)



妊娠中に歯科治療を受けてもいいの? 受診の「ホント」を教えてください!



妊娠中のお口トラブル①

治療や投薬の可否について

治療項目	可否	詳細説明
歯や歯ぐきへの麻酔	○	一般的に使用する麻酔薬は問題ありません。 (注)歯科用キシロカインやオーラ
レントゲン(X線)検査	○	受精後11日目～妊娠10週までは念のため避けましょう。
歯のホワイトニング	×	胎児や乳幼児への安全性が確立していないため、妊娠中・授乳中は避けます。
化膿止めのお薬	○	必要があれば可。
痛み止めのお薬	△	カロナール(アセトアミノフェン)は可。ロキソニン(NSAIDs)などは胎児に悪影響の可能性があるので避けましょう。

妊娠中でも服用できるお薬があります

お薬の服用も可能です。歯科で処方される薬で気をつけるものはロキソニンなど(NSAIDs)と呼ばれるお薬です。きちんと妊娠中であることを伝えて服用可能か医師に相談しましょう。

授乳中のお薬について

授乳婦が内服したお薬は母乳に移行しますが、その量は微量であり乳児に与える影響は少なく、ほとんどの薬が授乳可能と言えます。母乳育児には数多くのメリットがあります。不必要に授乳を中止すると、作られる乳汁の量が減ってしまうので避けましょう。歯科で処方される化膿止め(抗菌薬)や痛み止め(解熱鎮痛薬)は、乳児に影響するほど母乳中には移行しないことが分かっているので、服用しても授乳することができます。



痛みや不快感を我慢せず、信頼のできる歯科医師や歯科衛生士に相談を

以上のことからわかるように、妊娠中・授乳中のお母様は歯科治療を受けていただくことができます。痛いのを我慢するのではなく、きちんと信頼のできる歯科医師や歯科衛生士にお口の整備について相談して、これからの子育てに備えるようにしましょう。